

## 大腸がんの症状

早期の大腸がんの場合、自覚症状はほとんどありません。

大腸がんは、大腸の壁のもっとも内側にある粘膜から発生します。粘膜を越えて、がんが大腸の壁の外側に向かって広がるにつれて、症状が現れるようになります。

症状は、大腸のどこにがんができるかによりますが、血便、下血、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じ、おなかが張る、腹痛、貧血、原因不明の体重減少などが多い症状です。

大腸がんの症状として多いのが血便ですが、痔だと思い込んでいる方が少なくありません。

下血・血便

残便感  
肛門が痛む

貧血

便が細い

腹痛・腹がはる

疲れやすい

便秘と下痢を  
繰り返す

## 大腸がんは早期発見・早期治療すれば怖くない!?

大腸がんの一次検診では、便潜血検査が一般的に行われています。大腸がん検診で陽性(+)と言われたら、大腸の精密検査を受ける必要があります。

無症状の段階で検診を受けた人は、前がん状態や早期の大腸がんの状態で見られる可能性が高くなります。大腸ポリープは1cm以上の大きになると、がんになる可能性が高くなるため、前がん状態であるポリープのうちに切除すれば、大腸がんは予防可能です。

大腸がんになる人が増え始める40歳以上の方は、大腸がん検診を年に1度は受けることをお勧めします。

### 大腸がんになりやすい人

- 40歳以上の方
- 3親等以内に大腸がん患者がいる方
- 食事内容が高脂肪食・低繊維食の方
- 長期にわたる腸疾患のある場合

## 大腸がん検診で陽性と言われたら、大腸内視鏡検査を受けましょう!

大腸内視鏡検査(大腸カメラ)は、事前に下剤などで便を出し切り大腸をきれいにしてから、先端に小型カメラが付いている内視鏡という細長い管状の医療機器を、肛門から入れて行う検査です。

極めて小さなポリープも見ることができ、その場でポリープ切除も可能です。何もなければ多少の個人差はありますが、10~20分程度で終了します。ポリープ切除をしたときは、当院では1泊入院をして経過をみております。

大腸がん罹患した方の1~2割で、便潜血検査において陰性(-)結果だったという調査結果があります。出血しにくい平坦・陥凹性の腸がんもあるため、40歳以上の方は、便潜血検査結果や症状にかかわらず、一度は大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。

